



徳成寺 寺ともかわら版 第149号 2019年5月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

去る4/12に東京大学の入学式があり、その席で同大

名誉教授の社会学者・上野千鶴子さんが祝辞を述べられました。

東京医大の不正入試事件を通じて、女性のおかれた差別的な現実に触れながら、東大の変化と多様性に拓かれた側面を紹介しました。

だからこそ「あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに

使わないで下さい。恵まれた環境と恵まれた能力を、恵まれない人々を貶める

のではなく、そういう人々をたすけるために使って下さい。」と新入生を激励し、

誰も答えを出したことの無い知を身に着けるのが大学の使命であると

結びました。平成から令和に時代は移りましたが、「共に」を本気で

実現する時代にしていかなければならないと思います。

発行責任者
住職
大山健児
坊守
大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

いつもお世話になっております、長男です。

元号が平成から令和になりましたね。連日特番が組まれており、新しい時代の幕開けが騒がしく報道されています。加えて、超大型連休ということで仲が良かった同級生も地元に戻ってきており、連休とは縁遠いなと感じていた私も何とか7年ぶりに高校の同級生と食事をする事になりました。馬鹿なことを言い合える関係性こそ変わっていないのですが、高校当時では考えられなかった真剣な話もできるようになっており、実感はないもののそれぞれに大人になっているんだなと感じました。時が流れていく中で、周囲の様子や生活というのはどんどん変化していくと思います。そんな中でも変わらずに気さくに話せる関係というのはやっぱり大事ななと感じました。前号が小淵恵三さんだったので今回は令和おじさん菅義偉さんにします。左右で並べて見てください。

